行動経済学の可能性
～ナッジ理論とその応用～

山梨県立大学　申ゼミ

もくじ

- 行動経済学とは
- 意思決定のバイアス
- ナッジ理論とは
- ナッジの事例
- 甲府市の概要
- 現状
- 課題
- ナッジの応用案
- 参考文献

行動経済学とは

「従来の経済学（伝統的経済学）に心理学の理論を応用して人の行動を分析したもの」

意思決定のバイアス

1．プロスペクト理論

2．現在バイアス

3．ヒューリスティック

ナッジ理論とは

2000年代に米シカゴ大学のリチャード・セイラー教授が提唱

定義：「選択を禁じることも、経済的なインセンティブを大きく
変えることなく、人々の行動を予測可能な形で変える
選択アーキテクチャーのあらゆる要素を意味する。」

事例

１．臓器提供の意思表示

２．プリンターのデフォルト設定

３．小便器のハエに狙いを定めろ

４．「ほとんどの人が期限内に納税しています」という政府からの手紙

甲府市の概要

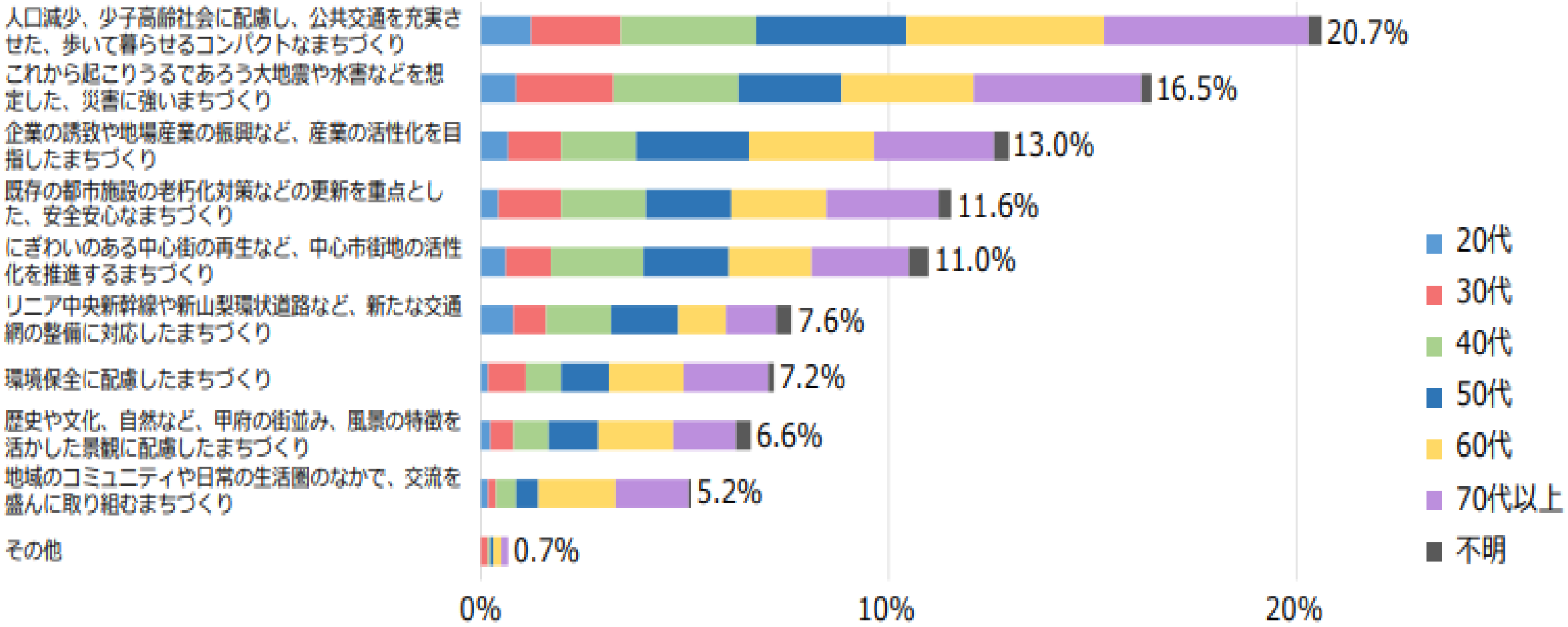
面積：212.47㎢

人口：187,007人

年齢別割合：15歳未満・・・13.1％
15～64歳・・・64
65歳以上・・・22

平均年齢：44歳

甲府市の現状・課題



甲府市：「都市の現況と課題」での市民アンケート調査結果

ナッジの応用案

参考文献

- 「行動経済学の使い方」　大竹文雄　著　2019年

- 「ナッジで、人を動かす」　キャス・サンスティーン 著
田総恵子 訳　2020年

・「第二章　都市の現況と課題」　甲府市　発行
https://www.city.kofu.yamanashi.jp/toshikekaku/masterplan/documents/04_dainisyou.pdf